

「一日は二四時間しかない。成功するには、人より余計に働く、時間当たりの効率をよくする。人の助けを借りる、この三つしかないんです」

と志太は強調する。ある意味では当たり前のことだが、ただ、余計に働くといっても嫌々では仕方がない。そこに使命感、実利感、危機感が加味されれば、火事場の馬鹿力ではないが、人間は計り知れない潜在力を発揮するとも言う。

志太は毎日、「目標を達成してみせるぞ」と声を出して念じているが、そうすれば、寝ていても難問解決のヒントがひらめく。八時間しか働かない人と、二四時間戦う人とは歴然とした差が生じるのは、当然のことでもある。

事実、志太は、いくつもの壁をそうやって突破してきた。それが「執念」でもある。志太はよく、「執念」との言葉を発する。何ごとに対しても執念を持って挑戦し、何としても、その分野で日本一になれと。

なにしろ、小島が社長の座に就いたときには、すでに四九歳になっていた。普通なら、そろそろ老後のことが気にかかり、後の人生はのんびり過ごしたいと考えるところだろう。

小島にしても、「人生で一番悔しかったのは、大学へ行けなかったこと。10歳年長の兄は行けたが、父親の体が弱って、私が働くほかはなくなったから」という。

ニチリョク「社訓」

- 一、若さとは年齢ではなく心のありようである。
- 二、可能性に挑戦する気迫が若さの尺度である。
- 三、信頼と信用に優るセールストークはない。
- 四、信頼は親切から始まり、信用は時間を守ることから始まる。
- 五、同僚に好かれる人は、お客様にも好かれる。
- 六、明るい性格は、相手を愉快にさせる。
- 七、知恵を出せ、知恵はたゆまぬ勉強から生まれる。
- 八、相手の立場に立ってものを考えよ。
- 九、給料は会社に与えた利益の配分と思え。
- 十、仕事を明日に持ち越すな。終業時刻を意識して働け。
- 十一、会社のために自分や家族を犠牲にするな。
- 十二、失敗や不振の原因をほかのせいにするな。自分の力不足と思えば肥やしになる。
- 十三、会社や上司の批判は自信を持って堂々とせよ。
- 十四、企業はムダを省けば必ず儲かる。自分がムダ人間にならぬよう心して励め。
- 十五、何ごとともバランスの上に立つ。バランスが崩れたとき悲劇が始まると心得よ。

「運のいい人は若い時に苦勞する。運の悪い人は、年をとってから苦勞するんです。」

デール・カーネギーには、次のような言葉がある。

『あなたは、一番好きな仕事をやっているのだろうか?もし、やっていなければ、今すぐ手を打つことだ。自分の仕事が好きでなければ、本当の成功は望めない。多くの成功者は、何度も他の仕事で失敗を重ねて、やっと自分のやりたい仕事を見い出している』

好きな仕事ならば、他人の何倍も働こうと、ストレスなど感じることはない。

佐川急便

「彼等には、凄いプライドがあるんです。お前のような奴に、この仕事がやれるわけがないと。それで、一カ月間いじめられました。それでも残ると、今度は逆に、強い仲間意識ができるんです」

つぼ八は、イトマン食品に乗っ取られた。

ワタミフードサービス

「外食の戦いは厳しいものですが、敵は眼中にない。敵は自分たちの弱さ、甘さ。わが社の、お客様の喜びを自分たちの喜びとするという企業文化を守れば勝ちます。敗れる時は、この文化が崩れた時でしょう」

いくら一流店で修行して技術的に高いものを持っていても、やる気がなければ、どうしようもないですからね。

【志太】そうですね。技術なんてなくてもいい。技術のある人を雇えばいいんだから。経理が分からなければ経理の人間を雇えばいい。要するにやる気。それには、会社をどの様にしたのかという志があるか、無いかですよ。

そこで、執念を燃やし続けるには、どうしたらいいのかということですが……。会社設立当初は、よしやるぞとの執念を燃やしていても、途中で腰砕けになってしまうのが普通だと思うのですが……。

【志太】まずは、自分はこうなりたいとの目標、志を決めたら恥も外聞もなく、しゃにむに挑戦しなければならぬわけだが、その心を燃やし続けるためには、それを言葉にして言い続けること。僕は、三五年間、正月に自分に言い聞かせているだけでなく、社員に向かっても言い続けている。それは、言い続けることで、自分を縛っているわけでもある。やはり人間は弱いものだが、自分だけでなく、社員や外部の人に公言することでやらねばならなくなる。そうやって、自分自身も、社内も盛り上げていく。言い続け、努力していけば、次第にそうなる。いくものなんだ。もし目標が達成できなければ、達成するにはどうすればいいのかと必死で考え、あるいは人に聞けばいいんだ。

みんな能力は同じようなものであり、問題は、自分を焚きつけてやる気にさせ、いかに執念を燃やすかだ。一日は二十四時間あるんだから、寝ていても、その事を考えるようにしろとね。

いずれにしろ、成功するには、人よりも余計に働く、時間当たりの効率をよくする。人の助けを借りるの三つしかないんです。その前提条件として、まず目標をしっかりと設定して、絶対に達成するぞと執念を燃やす。そして、達成するためには、何を、どうすればいいのかを徹底的に考える。執念は強ければ強いほどいいが、その執念を燃やすトレーニングは常にしなければならぬと思う。

「信念を持たない限り、人に信念を与えることはできない。自分で納得ゆかない限り、人を納得させられない」